

対象

どなたでも
定員 40名

受講料無料

県大・市大公開講座 2017
2

県立広島大学 × 広島市立大学
連携公開講座

言語を通じて世界を知る

全4回

10/6

新語・流行語からみる
現代中国の教育

県立広島大学 准教授
植村 広美

10/13

親日台湾の光と影
～時間と国境を超える日本語

県立広島大学 准教授
上水流 久彦

10/20

日本語から見える世界
～国字を通して～

広島市立大学 教授
樂 竹民

10/27

「サファリ」と「モラン」の21世紀:
「野生の王国」ケニアの将来を考える

広島市立大学 講師
目黒 紀夫

開始5年目を迎える本年度は、多言語・多文化についての教育プログラムを持つ2大学の特色を活かし、諸外国の文化や歴史、言語を通してその国の魅力や特長を引き出す講座「言語を通じて世界を知る」をテーマに開催。広島市立大学と県立広島大学から各2名の講師がそれぞれの専門知識を活かし、楽しく、そして役に立つ講座を展開します。

10月6日－10月27日 毎週 金曜日 18:30-20:00

会場 広島市立大学サテライトキャンパス

申込方法

ハガキ、FAX または email により、①郵便番号、②住所、③名前（ふりがな）、④年齢、⑤電話番号をご記入の上、**平成29年9月15日(金)(必着)**までに広島市立大学社会連携センター「言語を通じて世界を知る」係宛にお申し込みください。

*申込多数の場合は抽選とし、受講の可否は申込締切日以降に通知します。

申込・問合せ先

〒731-3194 広島市安佐南区大塚東三丁目4番1号 広島市立大学社会連携センター「言語を通じて世界を知る」係
TEL: 082-830-1764 FAX: 082-830-1555 E-mail: office-shakai@office.hiroshima-cu.ac.jp

言語を通じて世界を知る

講座の内容

10/6
第1回

新語・流行語からみる現代中国の教育

県立広島大学 准教授 植村 広美

長い歴史と文化をもつ中国ですが、近年、急激な社会の変化に合わせて新しい言葉が次々と生まれています。この講座では「孩奴（教育費に苦しむ子どもの奴隷）」と呼ばれる親から、大学卒業後も就職できずアルバイトで食いつなぐ「蟻族（蟻のように郊外の安アパートで身を寄せ合って生活する高学歴ワーキングプア）」と呼ばれる子どもたちまで、新語・流行語が映しだす現在の中国の教育事情を見ていきたいと思ひます。

10/13
第2回

親日台湾の光と影～時間と国境を超える日本語

県立広島大学 准教授 上水流 久彦

「頭、コンクリート」、台湾の南部はお酒の飲み方が「あっさり」だ、「超可愛（チョーかわいい）」、「一級棒（いちばん）」などは台湾で聞く言葉です。台湾には多くの日本語が現在も残り、新しく入ってきた言葉もあります。そこには植民地時代からの台湾の歴史や複雑な日本との関係が反映されています。台湾で使われている日本語から台湾の社会と「言葉は誰のものか」という問題を考えてみたいと思ひます。

10/20
第3回

日本語から見える世界－国字を通して－

広島市立大学 教授 樂 竹民

中国の文化等と共に漢字が古くから日本に伝来し、日本語に定着していくに伴って、日本人は漢字をもとに仮名を創出しました。そのみならず、意味を持った文字－国字をも作り出しました。それはいつ、だれが、どのように、どういう背景で作られたのでしょうか。その字数はどのくらいあったのでしょうか。これらの点について日中両国の風土や文化等の視点から探ってみます。

10/27
第4回

「サファリ」と「モラン」の21世紀：「野生の王国」ケニアの将来を考える

広島市立大学 講師 目黒 紀夫

「サファリ」とはスワヒリ語で「旅」を、「モラン」とはマサイの言葉で「青年」または「戦士」を意味します。言葉だけ聞いてもピンとこないかもしれませんが、どちらも「野生の王国」アフリカを象徴する単語であり、きっと誰もがその言葉を表現した写真を見たことがあるはずでひます。この講座では、そんなアフリカの野生動物と伝統社会を取り巻く状況を題材にしながら、異文化理解における言葉の問題を考えていきたいと思ひます。

広島市立大学 サテライトキャンパス

大手町平和ビル 9階

〒730-0051

広島市中区大手町四丁目1番1号

